



# スマイルオブキッズ 通信

Vol. 15

2016年1月発行

## ご支援をいただいている皆様へ

認定特定非営利活動法人スマイルオブキッズ 代表理事 田川尚登

2015年は皆様にとってどんな年でしたでしょうか？ 私たちにとってもあつという間の一年でした。滞在施設リラのいえも開設して7年目に入りましたが、皆様のご支援とボランティアの皆様のご尽力で365日休まず運営しています。利用者様にはお休みがありませんのでリラのいえで年越しされたご家族は4組でした。私たちは直接は伺えないのですが、利用者の皆様はそれぞれ様々なドラマを抱えております。天から授かった子ども達と接することでいろいろなドラマが生じてきます。乗り越えられることとは言え、乗り越えるのには時間はかかるし、いろいろな方々の出会いが道筋をつけてくださるように思います。出会いの意味と道筋をよく考えていけば乗り越える力が湧いてきます。

子どもの病気と闘っているときには気が付かないことが後から考えていくと意味付けができます。私にはそのことについてよく考えてみると自分の子どもが生まれてきた訳がわかるように思えてならないのです。またそのことを子どもによって親は試されているのだなあと感じるのは私だけでしょうか。

病気の子どもの達のことを考えるとその周りにいるきょうだい、親、祖父母など血縁でつながっている親族や出会いによって関係付けられた方々も必然性があつて出会っていて意味付けできていることになりました。これがいろいろな人間のある意味、進歩につながっていくことが天から人間に与えられたミッションなのでしょう。

そんな中で私たちの活動をする意義が見えてきます。病気や障害がある子どもと家族の支援は今の小児の慢性特定疾患の医療制度では満たされていない部分だからです。健全な子ども達と同じように生きていくためのお手伝いをすることです。10月にはきょうだい児預かり保育が新聞で取り上げられました。病児のきょうだいがどんな位置づけにされているのか今まで光が当たっていませんでした。愛情不足がどのような影響を与えているのか考えていく必要があります。親も現状の病児のことが一番ですから気づくのはその後なのです。きょうだいの我慢が過ぎるとある時期影響が何かの形で症状として出てきます。その症状が出ないようなほんの少しのお手伝いが預かり保育の実施している意味であり、成果につながっていると確信しています。また小児ホスピス設立準備活動も建設のための募金活動は約2億4千万円と29年8月までの3億円の目標と2020年の完成予定に少しずつ前進しています。土地がまだ未定ですが、行政に働きかけながら準備活動を進めています。次年度からは利用する子ども達との遊びについての研究会を立ち上げて運営の中に生かしていきたいと考えています。皆さんからのご支援で私たちの活動が成り立っていますことに感謝申し上げますと共に、今後とも小児医療の満たされていない部分へのご支援の程よろしく願います。



## サービスラーニングで お世話になりました

私は大学のサービスラーニング実習でリラの  
いへの活動に参加させていただきました。初日  
は横浜ラポールでふれあいコンサートに参加さ  
せていただき、普段関わる事のない障がい児の  
方やそのご家族の方々と関わらせていただきま  
した。とても楽しそうに鑑賞していて見ている  
自分も楽しくなってきました。リラのいえでの  
実習では部屋の清掃や、事務仕事、預かり保育  
などを体験させていただきました。利用者の為  
を常に考えている場所だと思いました。  
利用者の方のノートを見ました。利用者の方々  
にとってリラのいえの存在はとても大きいと感  
じました。

自分は5日間という短い期間でしたがたくさ  
んの事を学びました。これからもなにかイベン  
トがあれば参加したいと思いました。

(桐蔭横浜大学 榎木辰也)



## バザー&交流食事会


10月25日(日)バザーを開催しました。テラスにはご寄付頂い  
た日用品や洋服、手作りの小物やヘアアクセサリーなど、沢山  
の素敵な品物が並びました。開場前から並んでいたお客  
様に賑やかに面白い物を楽しんで頂きました。

室内ではハンドエステや整膚マッサージ、お茶会も開かれて  
こちらも大盛況でした。飲食コーナーではコーヒーや手作りケ  
ーキと共に、ノーベル賞授賞式で提供されるという紅茶も人気で  
した。オレンジピール、マリーゴールドの花がフレンドされた  
とっても香り高い紅茶で  
受賞者の気分を味わえま  
した。



利用者さんは5家族9  
名が参加。バザー品の売  
り上げと募金を合わせて  
169,564円でした。

バザーの後にはお世話  
になっているご支援者の方  
や町内会の方々を招いて  
の交流食事会がありました。  
特製の芋煮で体も心も  
温まりました。前日の  
値付けなど準備からお  
手伝い頂いたスタッフの  
皆さまありがとうございました。



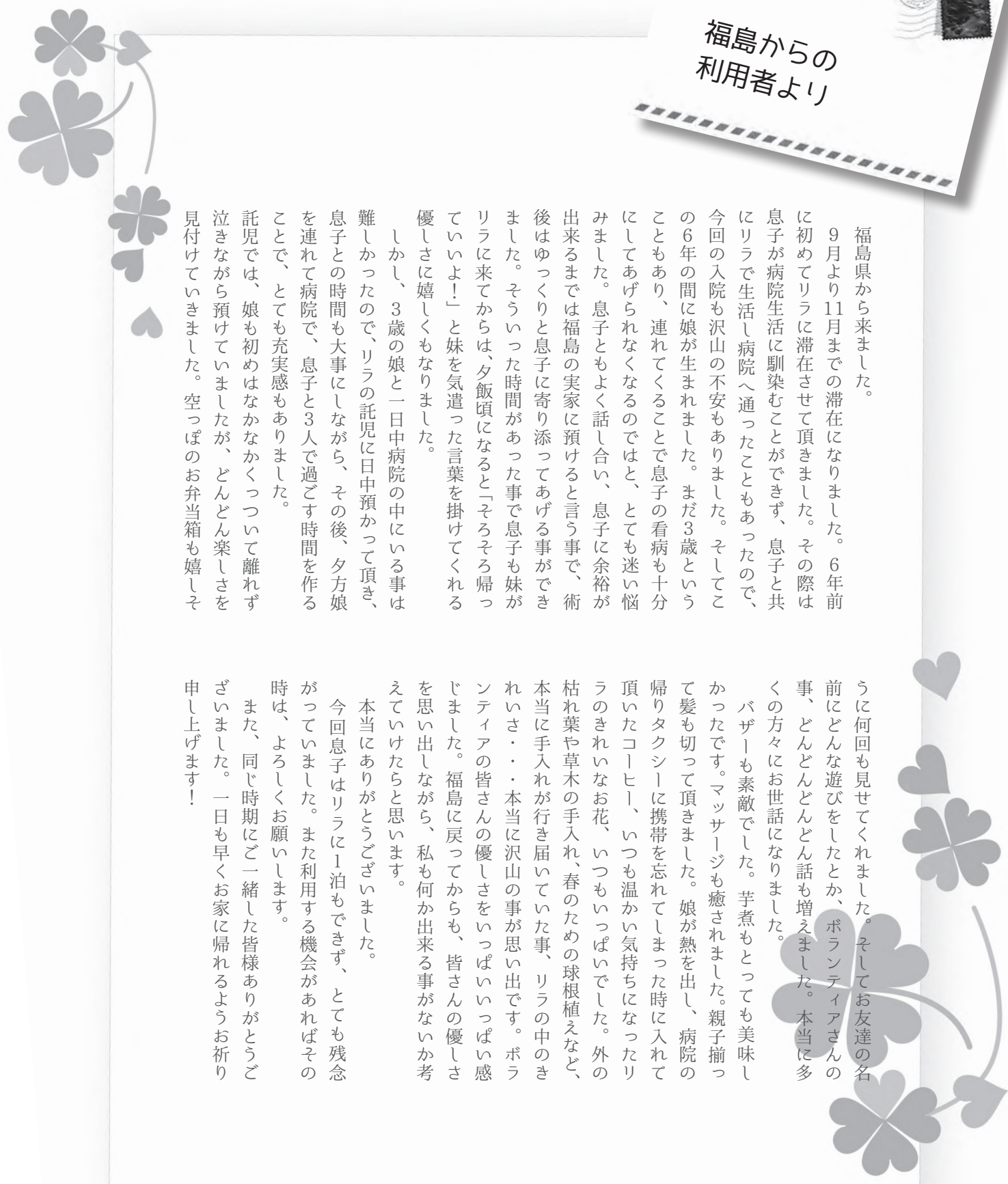
福島からの  
利用者より

福島県から来ました。

9月より11月までの滞在になりました。6年前に初めてリラに滞在させて頂きました。その際は息子が病院生活に馴染むことができず、息子と共にリラで生活し病院へ通ったこともあったので、今回の入院も沢山の不安もありました。そしてこの6年の間に娘が生まれました。まだ3歳ということもあり、連れてくることで息子の看病も十分にしていられなくなるのではと、とても迷い悩みました。息子ともよく話し合い、息子に余裕が出来るまでは福島の実家に預けると言う事で、術後はゆっくりと息子に寄り添ってあげる事ができました。そういった時間があった事で息子も妹がリラに来てからは、夕飯頃になると「そろそろ帰っていいよ！」と妹を気遣った言葉を掛けてくれる優しさに嬉しくもなりました。

しかし、3歳の娘と一日中病院の中にいる事は難しかったので、リラの託児に日中預かって頂き、息子との時間も大事にしながら、その後、夕方娘を連れて病院で、息子と3人で過ごす時間を作ることで、とても充実感もありました。

託児では、娘も初めはなかなかくっついて離れず泣きながら預けていましたが、どんどん楽しさを見付けていきました。空っぽのお弁当箱も嬉しそ



うに何回も見せてくれました。そしてお友達の名前にどんな遊びをしたとか、ポランティアさんの事、どんどんどんどん話も増えました。本当に多くの方々にお世話になりました。

バザーも素敵でした。芋煮もとっても美味しかったです。マッサージも癒されました。親子揃って髪も切って頂きました。娘が熱を出し、病院の帰りタクシーに携帯を忘れてしまった時に入れて頂いたコーヒー、いつも温かい気持ちになったリラのきれいなお花、いつもいっぱいでした。外の枯れ葉や草木の手入れ、春のための球根植えなど、本当に手入れが行き届いていた事、リラの中のきれいな・・・本当に沢山の事が思い出です。ポランティアの皆さんの優しさをいっぱい感じました。福島に戻ってからも、皆さんの優しさを思い出しながら、私も何か出来る事がないか考えていけたらと思います。

本当にありがとうございます。

今回息子はリラに1泊もできず、とても残念がっていました。また利用する機会があればその時は、よろしく願います。

また、同じ時期にご一緒した皆様ありがとうございます。一日も早くお家に帰れるようお祈り申し上げます！



# きょうだい児預かり保育



病気や障がいがある子どものきょうだい児は我慢をしていることが多いのが実情です。成長してから影響が出ることもあると言われてしています。そのためスマイルオブキッズでは『リラのいえ』できょうだい児保育をスタートさせました。きょうだい児保育ではまず子どもの思いを受け止めること、楽しい時間が過ぎて、ご両親が安心して病院へ向かうことができる場所としました。7年実施して見えてきたことは家族のサポートがもっとも必要。そして患者家族のことは世間にはまだまだ知られていないこと。行政などには具体的に助成を考えていただきたいです。どんな家族でも幸せになれるように。

その状態を知っていただきたいために、お預かりをしているお子様のママ達が取材に快く応じて下さいました。保育士は保育をするきょうだい児のことをお伺いするだけで、病気のお子様のことやご家族のことはほとんど知りません。話しづらいこともあるかと思いましたが、記事には私たちの知らないことも多く、ご家族のたいへんさをあらためて感じました。

毎日新聞神奈川版に10月29日(木)～11月3日(火)、4回にわたり掲載されました。大きくなあれ(子育ての現場から) きょうだい児①と②を転載します。(保育士 萱畑 佳代子)



## 大きくなあれ

(子育ての現場から) ① 10月29日

「きょうだい児」という言葉がある。病児・障害児のきょうだい児たちのことだ。横浜市南区の県立こども医療センターに隣接する施設「リラのいえ」は、全国でも珍しい常設のきょうだい児預かり保育を続けている。親が難病や障害がある子どもにかかりきりになり、十分に親と接する時間を無くしがちなきょうだい児たちを、いかに支えるか。保育の現場から考えたい。

「リラのいえ」は2008年、NPO法人「スマイルオブキッズ」が、小児患者と家族の滞在施設として開設した。翌09年から施設のリビングを活用し、きょうだい児の預かり保育を開始。8人の保育士たちが交代で、県立こども医療センターに通院・入院する子どもの親たちの保育の要望に応えている。

リラのいえに行くと、いつもはにかんだ笑顔を浮かべる2歳の女の子がいた。横浜市南区に住むこの女の子は、2人姉妹の長女。今年1月に生まれた妹は「ヒルシユスプルング病」を患っていた。ヒルシユスプルング病は、腸

を動かす「神経節細胞」が生まれつき欠如している難病だ。妹はこの病気の中でも症状が重く、ストーマ(人工肛門)を造り、同医療センターで入院生活を続けている。

30代の母はこの秋、長女をリラのいえに預け、毎日通院していた。病院で次女の世話をしつつ、ゆくゆくは自宅で過ごせるよう、在宅看護の方法を習得しようとしている。

次女が生まれる前、一家は横須賀市で暮らしていたが、母は「里帰り出産」するため長女と共に実家がある愛媛へ行った。産後、母は入院中の妹につきっきりになり、長女は実家にいる祖父母が面倒をみていた。だが、祖父母にも生活がある。そのままずっとは長女を預かれない。横須賀に残る夫のもとにも帰らなかった。

母は実家から神奈川へ戻るため同医療センターを調べ、リラのいえのきょうだい児保育を知った。

「リラのいえが無ければ、次女のための通院ができないか、長女を病院に連れて行くしかありませんでした」。母は振り返る。長女は動きたい盛りの2歳児だ。病院に連れて行っても、次女の世話や看病にかかる数時間を、院内で毎日待つことは難しい。

通院のため同医療センター近くに引越した。近所には認可保育園もあったが、定員いっぱいでは長女の一時期預かりも受け入れられないと断られた。「病院の近くにリラのいえがあったのは、救いでした」

◇

病気の次女がいることを、長女に受け入れてほしい。でも、我慢せず、やりたいことをやらせてあげたい。一。母の願いだ。

「次女が障害の事実を受け入れるのが大変な時が来るかもしれない。でも、長女が『そのままでもいいよ』と一緒に思ってくれたら」。リラのいえで遊ぶ長女を見詰めながら、母は話した。

小さい頃から我慢の多いきょうだいは、思春期以降も寂しさやストレスを抱え込んだり、自己否定したりするケースが少なくないという。でも、リラのいえで出会った親たちは、難病児や障害児の看病に追われながらも、胸に飛び込むきょうだい児をしつかり受け止め、抱きしめることができていた。

【宇多川はるか】



## 大きくなあれ

(子育ての現場から②) 10

月30日)

10月上旬の昼過ぎ、緑豊かな「リラのいえ」(横浜市南区)の庭に、子どもたちの笑い声が響いた。真っ青な秋晴れの下を駆け回っているのは、2歳の女の子たち。

「みてみて」大きなシャボン玉を作ってみせてくれた女の子。横浜市港南区は、来年1月に3歳を迎える。おしゃべりが上手な3姉妹の末っ子だ。2番目の姉(5)は難病「ファイファー症候群」を患っている。頭蓋骨(ずがいこつ)や顔面骨の成長に異常が生じる「症候群性頭蓋縫合早期癒合症」の一種だ。姉は成長に応じて顔面骨を延長させる手術が必要で、リラのいえに隣接する県立こども医療センターに、入院を繰り返している。

一度入院すると、退院まで1カ月以上かかる。今回の入院は8月下旬から12月までかかる見込みだ。母(39)は毎日通院し、治療に付き添ったり、症状の説明を受けたりしなければならぬ。その間、末っ子の女の子は、リラのいえで保育士と共にはしゃぎまわっている。難病児には自治体などによ

る支援や助成があっても、きょうだいのサポートはまだまだ整備が行き届かない。

「それでも、きょうだいを作りたかった」母は話す。長女(9)と次女の2人姉妹より「支え合う味方は多い方がいいかな」と思った。

リラのいえのきょうだい児保育のことは、同医療センターに張られていたチラシを見て、三女出産前から知っていた。難病児を抱えての育児に不安がある中、「サポートがあることが、三女出産への後押しになった」と振り返る。

次女と三女は今、友達同士のように仲良しだ。妹が生まれたことが、次女の心の成長にもつながっていると、母は感じている。

「病気で生まれてきたことにも、きつと意味がある。これから生きていく中で、きょうだいたちも一緒に、その意味を考えられたら」。母はそう願う。

難病児や障害児を育てる親は、きょうだいを作ったあきらめ、出産、育児にさまざまな不安が伴う。出産したら乳幼児を抱えながら難病児・障害児の面倒を見なければならぬだけでなく、妊婦検診中の預かり先を確保しなければならぬ。ただ、一般の保育

施設で難病児や障害児は預かってもらえない。

リラのいえは、こうした不安を抱える親の願いにも、応えようとしてきた。

「この子をみてもらえたら、下の子が産めます」。そう訴える障害児の母の声を受け、妊婦検診を受ける際、リラのいえの保育士が同医療センターと連携しながら障害児の保育を受け入れ、無事きょうだい誕生したケースもある。【宇多川はるか】



## 第7回地域がささえるふれあいコンサート

(はっぴーかいと・スマイルオブキッズ共催 神奈川福祉事業協会協賛)

平成27年8月1日(土)～2日(日)コーラスグループの亀淵友香&VOJAを迎え、横浜ラポールシアターを会場に3公演が行われました。普段家族と音楽ホールで生の音楽を聴く機会があまりない神奈川県内の特別支援学校に通う重症心身障害がある子どもと家族が一緒に車いすやバギーのまま音楽鑑賞できる機会を設け今年で第7回目となりました。130家族364名の参加者で盛会に開催することができました。参加者からは「コンサートホールで生の音楽を聴く機会に恵まれ、子どもの普段見ることのできない笑顔や体の動きをみることができ、家族みんなで楽しむことができた。毎年この機会を楽しみにしています。」との感想が多く聞かれました。以外にもこういう機会がないとのこと、全国にも是非広めていただき健常の子ども達と同じように生の音楽鑑賞の機会をできるだけ多く設けてほしいと思います。



### ご寄付一覧(敬称略)

(2015年4月～2015年11月)

ご支援、ありがとうございます

#### 【寄付・賛助によるご支援者】

小林整治、堀川浩邦・恵子、翠ヶ丘教会有志、南区邦楽協会、清水久美子、相馬かよこ、安嶋裕美、沼沢静江、土谷勇雄、伊澤リヨ、張健、十文字貞夫、小林整治、村田大輔、山浦襄司、高尾節子、川村征雄、原公泰、森田知子、直の会土居止戈代、長谷川元保、安藤弘子、金子正史、瑛子、吉田久美子、菅頭妙子、横山新一郎、田中朝美、金子サキ、菱沼良夫、小山田豊、吉田昭寿、武内大佳、林勝、鴨井義尚、織田紘子、白幡広記、須佐井信子、福島可奈子、根本富雄・祐子、麻生俊英、川村博、青山真莉、樋口とみ子、藤原勝美、本多八重子、千久田恵、水戸陽子、吉田真弓、川島浩子、石橋一子、榎本みさを、桑原かつ子、大木宏之、丸茂弘子、中村武美、国武洋子、森山喜代子、佐藤とく、満永文、谷畑育子、堀川浩邦、安嶋裕美、中尾和子、住田勝美、田川正志、横山朋美、澤島政行、白川光政、池田龍子、福村祐子、須藤克哉、野中麻佐美、亀井めぐみ、門田彰三、小瀬村芳明、佐藤庄一郎、永井進、浅見和夫、津嶋りえこ、椿健二、大嶋博之、山内登紀子、碓井裕子、竹田弘、滝沢たか子、原尚子、天海百合子、横浜和夫、張健、(尚)仁天堂(湯川仁)、吉田敏子、(社)NCS、シヤパン、田中勢津子、高橋光雄、石田美千子、若杉郁子、小林整治、小原庸子、今村恭子、山田しのぶ、医師の会、大久保美穂子、三浦則子、高橋房子、木下和子、草間知子、京浜スチール工業(株)、大崎逸朗、開上光代、小池満子、鈴木ひろ子、飯田朝子、細谷和一郎、檜佐幸子、原豊文、坂井淳子、大久保八重子、竹内祥江、高森浩信、島谷健一、安嶋裕美、志澤直樹、川上美弥子、岩崎純士、(株)ザンゴジャパン、張健、藤田和夫、本橋一樹、福島恒男、樋口喜邦、高尾節子、井上純子、岩ヶ谷幸子、花田大、鈴木美登里、山田和嘉子、秋山美和子、旬の隠れ家あかり、黒岩希、森晃一、阿比留聰子、木村裕毅、石井康博、小林整治、岩田安理、加藤靖子、松田幸子、大野乃里子、清水頼子、玉崎麻里江、栢尾美恵子、島倉志緒、森田知子、木原芳嗣、土居久子、安嶋裕美、原一博、佐々木由美子、張健、吉田孝子、船坂友の会、田川志津恵、松本真理子、松永朱美、脇有範、加藤昌子、高橋宏之、竹内啓介、小林整治、山野真純、手塚照子、高尾節子、村上次代、張健、東北醤油株式会社(佐竹弘明)、安嶋裕美、玖村俊枝、梅木宏、大貫茂子、石井智己、坂井匠子、青山真莉、小林整治、高市方子、高橋恵子、五百川麻子、高尾節子、張健、安嶋裕美、高橋光雄、小林整治、日本ボーセリペンインターズ協会(展示会会計落合節子)、高尾節子、有本淳子、麻生洋子、安嶋裕美、麻薙朝彦、張健、小林整治、龍野淳、阿部啓子、上原妙子、森田安彦、



安嶋裕美、高尾節子、中村忠雄、須佐井信子、張健、吉田孝子、工藤四郎・三津子、太田弘、岩田慶隆、神奈川福祉事業協会

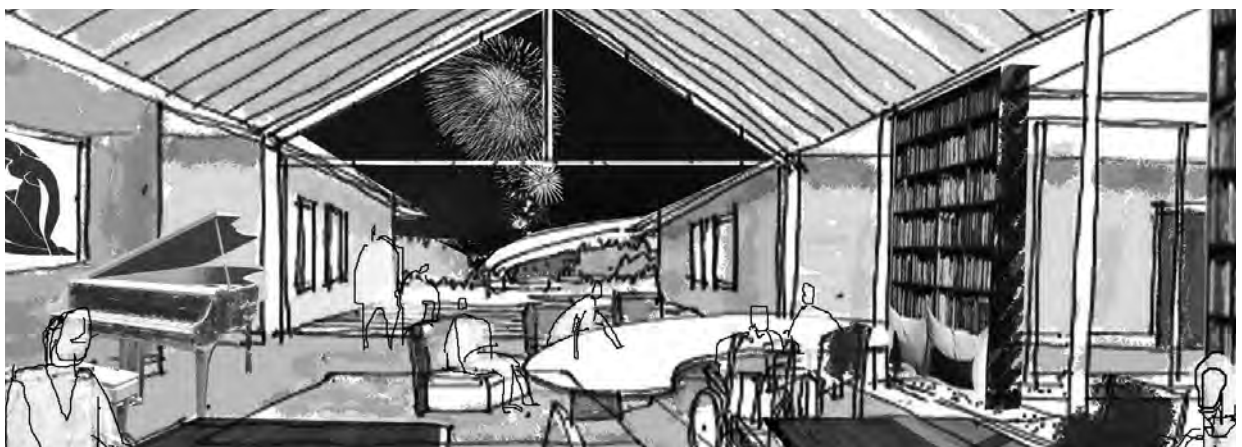
【小児ホスピス建設への寄付者名】

亀井洋子、水野美文、河合映江、ワイワイサポートプロジェクトジムキョク、塩森芳江、小島桂子、福田清、武士俣朋美、稲葉啓、下出和治、久保田綾、原尚子、島谷健一、目代兼士、黒田勝治、石村由利子、小松清子、佐藤和子、安井恵子、手芸ボランティアみなづき代表山崎勝子、伊藤泰、川口記代美、ヨシノカズヒロ、トルコキキョウの会代表高木伸幸、武川幸子、上村美智子、森田知子、直の会代表土居止戈代、渡辺真哉、菱沼良夫、斉藤義彦、安藤弘子、横山新一郎、菅頭妙子、須佐井信子、岡和子、林勝、大竹裕也、田島香代子、浅川富美子、塩見あき子、吉田孝子、藤原栄子、天野由紀江、榎本みさを、山本文子、本田八重子、ミツナガアヤ、中村武美、國竹洋子、山本みよ子、青柳充彦、鍋島絢子、丸茂弘子、堀川浩邦（恵子）、高橋義秀、田川正志、池田龍子（有）、伊勢屋呉服店、真板保昌、久保田綾、門田彰三、小瀬村芳明、鈴木喜子、タケダヒロシ（タケダドモクリニツク）、大嶋博之、稲川典子、原尚子、天海百合子、毛利環、内藤三紗子、安達かほる、ヒカリ窓業高橋光雄、元浦則子、依田八重子、青木茂、川越泰、

草間知子、小池満子、鈴木ひろ子、飯田朝子、佐藤佐栄子、竹内祥江、ワイワイサポートプロジェクトジムキョク、志澤直樹、千葉喜美子、芹田俊雄、大住多紀子、羽田貞、石村由利子、藤田和夫、本橋一樹、齋藤由里子、岡山幸弘、鈴木基弘、原尚子、大竹裕也、久保田綾、矢島美代、大倉能子、西村博子、石井智巳、吉田正紀、寺田文恵、山ノ井恵子、下出和治、岩田安里、松田幸子、吉森英孝、曾我房代、秀島勇治、黒澤宗剛、高木和志、田川いつ子、川口記代美、森田知子、大竹裕也、亀井洋子、松丸和子、安井恵子、小澤広美、安藤信哉、土岐和正、鈴木広乃、小山孝男、桂子、脇岡あさ子、中村玲子、中村美智子（カ）、ツバキヤクシヨウ、久保田満子、福村裕子、久保田綾、カトウアツシ、福田磨理子、森みどり、今野雄一、高田亜紗子、ヤマモトカナコ、下出和治、小島桂子、ウエルシュ有紀子、原尚子、久保田綾、京浜スチール工業（株）、長沢路代、松本圭生、高市方子、安東隆子、小山桂子、曾我紘一、亀井洋子、久保田綾、原尚子、小瀬村芳明、鳥越豊、青野恂子、山本美代子、斉藤睦美、古賀よしこ、小山桂子、ミツナガアヤ、今井崇雅、小島桂子、山岸重美、山岸栄美子、川名見紗、久保田綾、サノフイ（カ）、深澤昌美、小山桂子、田川いつ子、小林猛、ちかこ、フカザワヒロコ、井上早苗、ナルオヨシコ

【物品によるご支援者】

菊地涼子、布施菊子、中根はるみ、三浦美奈子、伊藤紘一（Sharmarpan）、草場春美、遠藤、米田京太、深瀬和秋、ポルトボヌール、草場春美、岡野、高森浩信、草場春美、草場春美、(株)ファンケル、伊藤紘一、高石直美、吉垣和也、(株)ザンゴジャパン、株式会社柴橋商会、田中勢津子、久保田満子、福山綾（櫻井千尋）、脇信恵、根津あき子、佐伯由美子、鶴見孝子、東横商事、塩森芳枝、六ツ川パン尾、福山綾（櫻井千尋）、東横商事、草場春美、佐藤誠洋、大河原行雄、瀬戸島千枝子、脇信恵、永井美智代、田上（Sharmarpan）、菅畑佳代子、廣瀬孝利、福山優二、児島盛仁、美嘉、佐伯由美子、花王株式会社、佐々木三知夫、横山英史、福山綾、白谷弥生子、中山美喜穂、福山綾、大塚民枝、近藤、石破、佐藤隆夫、草場春美、小島あずさ、北島孝子、加藤靖子、菅原、保坂悦子、林三恵子、東横商事、川藤啓子、上戸さち子、藤沼絢子、白谷弥生子、上戸さち子、阿比留聰子、伊藤紘一、芹沢玲子、長谷川幸恵、石破房子、竹田こどもクリニツク、横浜南法人会、伊沢床屋、麻生洋子、小野寺徳子、鶴田恵彌子、佐藤誠洋、水口委子、水口委子、吉田多紀江、松澤靖子、草場春美、東横商事、久保順、須之内浩、宮島永太良（株）ピローズ、



## ■リラのいえ・利用状況（2015年4月～2015年11月）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
家族数	40	38	38	39	54	34	30	37
利用者数	414	337	377	363	461	512	312	380
稼働率	80.4%	62.1%	77.5%	86.3%	80.2%	83.3%	76.2%	80.4%

## ■きょうだい児預かり保育・利用状況（2015年4月～2015年11月）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
利用人数	66	48	58	65	61	101	85	100
時間	246	156	164.5	189.5	190.5	286	246	322.5

## 支援サポートのお願い（賛助金・寄付金には税額控除が受けられます）

### 【リラのいえ運営・保育・音楽支援事業のための募金口座】

◇ 賛助会費として（1口5,000円） ◇ 寄付として※当団体からの領収書は寄付金控除の対象になります。

ゆうちょ銀行振替払込口座番号：00250-0-113817

加入者名：NPO法人 スマイルオブキッズ

### 【小児ホスピス設立支援のための募金口座（小児ホスピス建設用特定振込口座）】

ゆうちょ銀行振替払込口座番号：00260-2-52367

加入者名：トクヒ) スマイルオブキッズ

## 活動報告（2015年4月～2015年11月）

5月10日 小児ホスピス建設のためのチャリティーコンサート（亀渕友香 & ROLLY 関内ホール）

5月16日 防災訓練 ボランティア慰労会

6月20日 リラのいえバーベキュー

7月9日 こども医療センター重心施設でミニコンサート（演奏：関孝弘）

7月23日 小児ホスピス建設のためのチャリティーコンサート（演奏 関孝弘 県立音楽堂）

8月1・2日 第7回地域がささえるふれあいコンサート（横浜ラポールシアター）

10月17・18日 JHHH 全国滞在施設全体会議参加（札幌）

10月25日 バザー開催

こども医療センターの保育を担当

公開講座「子どもの健康セミナー」（4/18・7/18・11/7）

「わたぼうしの会 家族の集い」（11/28）

こども医療センター家族教室の保育、ボランティアとして参加

ダウン症（6/17・11/25）、血液再生医療（7/25）、

口唇口蓋裂（9/26）、未熟児（10/14）

小児ホスピス建設特定口座残高 2015年11月末現在：236,365,394円

※(株)セカンドハーベストフードジャパン様から毎月利用者用の食材等の寄附、(株)東横商事様から利用者用に毎月2回ミネラルウォーター5ケースと食材の寄附と社員様のボランティア作業の提供をいただいております。

※ボランティアスタッフ会議・医療センター運営会議・小児ホスピス全体会議毎月開催

※保育話し合い隔月開催

会報発行者：認定特定非営利活動法人 スマイルオブキッズ

〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川4丁目1124-2 電話・FAX：045-824-6014

http://www.smileofkids.jp/ e-mail: toiwase@smileofkids.jp